

経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻液）の接種をご希望の方へ

経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻液）の接種を実施するにあたり、接種を受けられる方の健康状態を把握する必要があります。そのため、予診票にはできるだけ詳しくご記入の上、医師の診察をお受けください。なお、お子さまの場合、健康状態をよく把握している保護者の方がご記入ください。

【ワクチンの効果と副反応】

本ワクチンはインフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。

一方、本ワクチンの接種に伴う副反応として、鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔内頭痛、頭痛などがみられることがあります。また重い副反応としてショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱性けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力がはいらない、しびれ、食べものが飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど）、血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑など）などが報告されています。

なお、副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた方または家族が独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

詳しくは独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のホームページ（[https:// www.pmda.go.jp](https://www.pmda.go.jp)）をご覧ください。

【予防接種を受けることができない方】

- 1) 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- 2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- 3) 過去に本ワクチンに含まれている成分で、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性の
- 4) ひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応の起こしたことがある方
- 5) 明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
- 6) 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している方
- 7) 妊娠していることが明らかな方
- 8) その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

【予防接種を受ける際に医師と相談していただく方】

- 1) ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）などの過敏症を起こしたことがある方
- 2) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある方
- 3) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性の発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- 4) 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- 5) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 6) 重い喘息のある方または喘鳴の症状のある方
- 7) 薬の服用または食事（鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもの）で発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- 8) 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている方
- 9) 妊娠中または妊娠の可能性のある方（接種前1か月間避妊していない方）、授乳中の方
- 10) サリチル酸系医薬品（アスピリンなど）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している方

【予防接種を受けた後は以下の点に注意してください】

- 1) 接種後は、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）が起こることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2) 接種当日は過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状を呈した場合
- 3) には、すぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差支えありません。
- 4) 妊娠が可能な方は、接種後2か月間は妊娠をしないように注意しましょう。
- 5) 接種後1～2週間は乳児や重度の免疫不全の方との接触を可能な限り控えましょう。

HAワクチン（注射型）の接種をご希望の方へ

インフルエンザワクチン（注射型）の接種を実施するにあたり、接種を受けられる方の健康状態を把握する必要があります。そのため、予診票にはできるだけ詳しくご記入の上、医師の診察をお受けください。なお、お子さまの場合、健康状態をよく把握している保護者の方がご記入ください。

【ワクチンの効果と副反応】

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

一方、副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがありますが通常は2～3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛なども起こることもあります。通常は2～3日で消失します。過敏症として、発しん、蕁麻疹、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみなどもまれに起こります。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。

非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。（1）ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）、（2）急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（通常、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等）、（3）脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、（4）ギラン・バレー症候群、（5）けいれん（熱性けいれんを含む）、（6）肝機能障害、黄疸、（7）喘息発作、（8）血小板減少性紫斑病、血小板減少、（9）血管炎（IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎等）、（10）間質性肺炎、（11）皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、急性汎発性発疹性膿疱症、（12）ネフローゼ症候群。

（1）から（12）のような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。なお、健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人又は近親者が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

【予防接種を受けることができない方】

- 1) 1. 明らかに発熱のある人（通常は37.5℃以上の人）
- 2) 2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3) 3. 過去に、インフルエンザワクチンの接種を受けてアナフィラキシーを起こしたことがある人
- 4) 4. なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください
- 5) 5. その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人

【予防接種を受ける際に医師と相談していただく方】

- 1) 1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
- 2) 2. 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
- 3) 3. カゼなどのひきはじめと思われる人
- 4) 4. 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人
- 5) 5. 薬の投与又は食事（鶏卵、鶏肉など）で皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある人
- 6) 6. 今までにけいれんを起こしたことがある人
- 7) 7. 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人
- 8) 8. 妊娠の可能性のある人
- 9) 9. 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患のある人

【予防接種を受けた後は以下の点に注意してください】

- 1) 1. インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- 2) 2. インフルエンザワクチン接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 3) 3. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- 4) 4. 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつもどおりの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 5) 5. 万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。